

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	11
1. 理念の共有		2
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		3
5. 人材の育成と支援		2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		6
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		11
1. その人らしい暮らしの支援		9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		30

事業所番号	4470200900
法人名	株式会社 ケア・リンク
事業所名	はぴね別府
訪問調査日	平成21年 9月16日
評価確定日	平成21年10月 7日
評価機関名	福祉サービス評価センターおおい

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年9月22日

【評価実施概要】

事業所番号	4470200900
法人名	株式会社 ケア・リンク
事業所名	はびね別府
所在地	別府市天満町1479-4 (電 話) 0977-27-3613

評価機関名	福祉サービス評価センターおおい		
所在地	大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成21年9月16日	評価確定日	平成21年10月7日

【情報提供票より】 (平成21年8月12日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年10月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤 17人, 非常勤 4人, 常勤換算14.7人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り 4階建ての2～3階部分
------	----------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷 金	(有) (135,000 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食 430 円 夕食 650 円	昼食 550 円 おやつ 円	
	または1日当たり 1,630 円		

(4) 利用者の概要 (平成21年8月12日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	7 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.8 歳	最低 75 歳	最高 95 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	安部第一病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

- 1 市街地の中にある。すぐ近くに別府公園という緑の多い広い公園があり、散歩に利用している。
- 2 隣接して協力医院があり、安心して生活できる環境である。
- 3 地域との交流を大切にし、敬老会の会場に施設を提供するなど、積極的に地域とのかかわりを持っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目: 外部4) 前回改善課題について職員会議で検討し、「地域密着型としての理念」「災害備蓄の準備」について改善されている。その他の課題についても、運営推進会議で報告し、話し合いが行われている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 外部4) 今回の自己評価は管理者が作成している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 外部4, 5, 6) 2ヶ月に1度開かれる運営推進会議では、災害時の協力体制について、地域の自治会でお願いをしている。運営推進会議のメンバーから多くの意見をもらい、協力を得ている。外部評価結果についても報告し、意見をもらっている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 外部7, 8) 家族とは電話や面会時に話しやすい雰囲気作りをこころがけ、直接意見などをもらうことが多い。家族会を年2回、家族アンケートを年1回行い、多くの意見をもらえるよう工夫している。出された意見には迅速に対応し、運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目: 外部3) 自治会に加入しており、盆踊り大会の準備や当日の参加、敬老会では会場を提供するなど、積極的に地域活動に参加している。中学生の職場体験や小学生、保育園との交流も行っている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体法人である「はびね」の運営理念に加えて、事業所独自に「地域の住民として共に助け合う、地域の人と共に過ごす時間を作る」という、地域に密着した理念を作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は職員の採用時、全体会議、申し送りの際に理念について伝えており、全職員は理念を日々のケアの中に活かせるよう取り組んでいる。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、盆踊り大会の準備や当日の参加、敬老会では会場を提供するなど、積極的に地域活動に参加している。中学生の職場体験や小学生、保育園との交流も行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果について、職員会議で改善に向けて話し合い、取り組んでいる。今回の自己評価は管理者が作成している。	○	評価の意義やねらいを話し合い、自己評価を全職員で取り組むことで、ケアの振り返りや見直しなどに、評価を活用していくことを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開かれる運営推進会議では、事業所の活動報告や地域との連携など、色々なテーマごとに話し合い、メンバーから多くの意見をもらっている。外部評価結果についても、報告し意見をもらっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当窓口に出向いて事業所の状況を報告したり、運営上の疑問点などを相談し、アドバイスをもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、利用者の暮らしぶりをお便りにし、金銭管理も一緒に郵送している。 職員の異動については年2回開催される家族会で報告している。欠席された家族には議事録として郵送している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは電話や面会時に話しやすい雰囲気作りをこころがけ、直接意見などをもらうことが多い。家族会を年2回、家族アンケートを年1回行い、出された意見には迅速に対応し、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ユニット間で半年に1名ずつの異動を行っているが、引継ぎ期間を約1ヶ月とり、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。日頃から、ユニット合同での申し送りやレクリエーションを行い、すべての利用者と馴染みの関係づくりを心がけている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人には「新採用チェックリスト」に添って指導を行っている。年間研修計画表を作成し、職員には勤務として外部研修に参加する機会を設けている。資格取得に向けての取り組みも積極的に行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	別府市グループホーム連絡協議会に加入しており、研修会、交流会などを通して同業者との交流を深めている。職員交換研修を計画中であり、今年度内には実施する予定である。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人や家族に施設見学をしてもらっている。自宅や病院などを訪問し、馴染みの関係を作るよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を、人生の先輩として尊敬している。利用者の気持ちに寄り添いながら、一緒に楽しい時間を過ごせるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、暮らし方の希望や意向の把握に努めている。本人や家族から知り得た情報を「ヒアリングシート」にまとめている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回、カンファレンスを行い、本人や家族の意向に添った介護計画となるようスタッフ全員で話し合い、利用者本位の計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に3ヶ月に1度の見直しとなっているが、毎月モニタリングを行っている。利用者の状況に応じて変更が必要なときは話し合い、その都度計画を作成している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助や買い物、選挙の投票、なじみの美容院へ行くなど、本人の意向に添って柔軟な支援を行っている。地域の人からの介護についての相談にも対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望するかかりつけ医となっている。家族や医師とは受診結果など情報のやりとりを通して関係を築いており、往診に応じてくれる複数の医療機関もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「看取りについての指針」を作成しており、入居契約時に、本人や家族に説明している。また、状況の変化に応じて繰り返し話し合い、関係する全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員会議で話し合う機会を設けており、全職員は利用者の尊厳を守るケアを常に心がけている。記録などの個人情報の取り扱いや管理に配慮を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかに一日の流れは決まっているが、起床時間や食事の時間など本人のペースに合わせて、一人ひとりの希望に添って支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は同一建物内にあるデイサービスの調理専門職員が作っているが、汁物の温めなどはそれぞれのユニットで行い、温かいものが提供されている。利用者と職員が同じものを一緒に食べながら、会話を楽しんでいる。利用者の希望や好みを献立に反映させ、その人に合わせて柔らかくしたり、刻んで提供したりしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に入浴日を週3回と決めているが、本人の希望に添っていつでも入浴できるよう対応している。また、長くお風呂を楽しみたい人にはゆっくりと入浴できるよう配慮している。入浴を嫌がる人には声かけするなど、工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理、裁縫、いけばな、屋上菜園など、一人ひとりの経験や趣味を活かして、力を発揮する場面を作っている。利用者が自らやりたいと思う気持ちを引き出せるよう支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には近くの公園や神社に散歩に出かけている。月1回は利用者の希望を聞いて外食に行ったり、また、年1回、利用者を3グループに分け、日をずらして県内外への一泊旅行にも出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各階フロア入り口に電子錠を設置しているが、利用者や家族には近隣の交通事情や階段からの転落防止のためと説明し理解を得ている。職員は鍵をかける弊害を理解しており、外出しそうな人には一緒についていくなどの配慮を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月避難訓練を行い、2ヶ月に1回は夜間を想定した訓練をしている。災害時の協力を自治会役員会でお願いしている。前回の課題であった災害時の備蓄を行った。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立を作成し、食事摂取量、水分量の記録をとっている。オーダーシートで、食事の嗜好や内容などのバランスを考慮して変更している。日中、1時間ごとに様々な飲み物を提供し、水分の確保に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの中央に大きなテーブルや窓際にソファを配置し、思い思いの場所でくつろげるように工夫している。季節の生花を飾り、壁には外出時の写真などを掲示している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出のある写真や家族の写真を飾ったり、使い慣れたタンスやソファ、お仏壇などを本人の希望する場所に配置するなど、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

〔取り組んでいきたい項目〕

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

〔取り組んでいきたい内容〕

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

〔特に力を入れている点・アピールしたい点〕（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	はびね別府 2 階
所在地 (県・市町村名)	別府市
記入者名 (管理者)	河野 道子
記入日	平成 21年 8月 25日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	はびね別府の理念を職員全員で共有し、常にご利用者様に寄り添った介護を目指している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	はびねはどのような介護を目指しているかを採用時は勿論、申し送りや全体会議で伝えている。特に現場でのOJTを大切にしている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	入居時の説明は勿論、地域運営推進会議や家族会にて行事報告と共に報告している。現在は天満町の住人として皆様に認知していただいています。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	顔を合わせれば挨拶を交わし、時にはお話をしたり、回覧板を回していただいたり、避難訓練の際避難場所をお借りしたりしている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	2ヶ月に1回の運営推進会議にご参加いただいたり、地区の盆踊りにご家族様と参加したり、敬老会では演芸を披露したりして天満町の住民として楽しく支えあっています。また、地域の保育園や小・中学生の訪問も受けている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	盆踊りのヤグラの組立てや景品の袋詰めや後片付け、敬老会の会場準備や出し物への協力を行っている(事前に指示をいただいてシフトに組み込んでいる)。また、中学生の職場体験や看護学生やヘルパーの実習生の受け入れも行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価受審は日々の業務の評価であり、ケアを振り返る良い機会となり助かっています。毎回、ご指導いただいた内容は改善すべきは全て改善し、職員とも共有して有意義に活用させていただいています。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年は介護保険報酬改定もあったため地域推進会議でも議題に取り上げ、ご家族様や地域の方に情報提供を行い、ご意見を頂いた。また例年通り、地域行事への協力や参加の情報をいただき、行事の準備などをお手伝いさせていただいている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	別府市グループホーム連絡協議会で市役所の介護福祉課担当者にご講演を依頼し講演会を開催したり、日常では運営上の疑問点などを相談に行きアドバイスを頂いている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員は研修に参加し理解を深め、入居時などに制度についてご説明申し上げ、実際に手続きを取られた方も居られる。また、成年後見制度についてのファイルをいつでも閲覧できるよう玄関横に設置している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置しており毎月1回委員会を開催し、全体会議で職員に報告し意識を高めている。研修は社内研修にて研修を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書と重要事項説明書の読み合わせを行い、署名捺印をいただいている。また、疑問が生じた時はいつでも説明を行い納得していただいている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の会話の中で遠慮なく訴えられる雰囲気をつくっているが、認知症の症状が重く言葉で訴える事ができなくても表情や行動から本人様の意向を察し、利用者様の意思を尊重したケアを心がけている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	①担当職員が写真入りの『1ヶ月のご様子』を作成 ②施設長が施設全般の近況報告の手紙と立替金管理簿など準備 上記①②を請求書と一緒に郵送している。健康状態については病院受診が必要な病気や怪我の時はその都度電話連絡している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会やお電話の際に直接言っていたり、年2回開催の家族会で意見を出していただいたり、年に1回行っている『ご家族様アンケート』でも多くのご意見をいただいている。ご意見に対しては速やかに回答タイムリーに対応すると共にアンケートは集計結果を全家族に報告している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は毎日の申し送りに参加し、直接スタッフの意見を聞く事ができ、速やかに対応している。 リーダー会議や全体会議での意見交換は勿論、いつでも意見を言える体制になっている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員は互いに助け合う気持ちが大きく、急な病気の休みにも必ず他の職員が気持ち良くカバーしてくれている。また行事の際は普段より多く出勤するようシフトを組んでいる。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は基本的には半年に1回1名ずつとしているが採用者の教育のため新規採用があると異動がある場合もある。夜間の異常時や合同イベントの際、他の階の職員が対応しても動揺しないよう日頃より互いの階の利用者と接触を持ち顔見知りとなっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新採用者には『新採用職員チェックリスト』に沿って指導を行い、個々の能力に応じ補佐の期間に変化をつけている。年間を通して、外部研修や施設内研修で研鑽を積みレベルアップに努めている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	別府市は8施設でグループホーム連絡協議会を設けており、研修会や交流会を行い情報交換を行っている。またリーダー研修では互いの施設で交換研修を行ったりもした。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ゆっくり休憩が取れるように各フロアーに冷暖房完備の職員の休憩室を設けている。また、施設長やリーダーは職員の表情や様子を観察し声かけなどを行い、相談を受けたりしてfollowしている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員一人ひとりの得意分野を把握し活かしてもらい、認められる事で喜びを感じてもらう。 6ヶ月に1回の人事評価で評価し、給料に反映させている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご利用前に施設長と計画作成担当者のご自宅に訪問調査に伺い、家庭環境や生活状況(得意な事や趣味)を確認させていただくと共に本人様とご家族様からどのような生活を望んでおられるのかを伺っている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談や見学に来られた際に困っている事や不安に思っている事等を十分に時間をとって伺い、アドバイスも行い少しでも気持ちが楽になるように援助している。また、その後の相談もいつでもお受けしている。更にご利用前に施設長と計画作成担当者のご自宅に訪問調査に伺い、再度ご家族ともお話しして入居に対する不安を残さないようにフォローしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	はびねのご利用が難しい方には在宅での介護サービスの利用方法をアドバイスしたり、入居できそうな施設の紹介などを行い必ず次につながるように努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご利用前に本人様に見学をしていただいたり、訪問調査にて職員の顔を覚えていただいたりしている。残念ながらショートステイはない。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の大先輩として接しており、色々な事を教えていただいています。常日頃より『介護する側が楽しくない事はご利用者様も楽しめない』と思っていますので職員も一緒に過ごす時間を楽しんでいます。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご入居者様の様子を発信し喜びを共有し、面会時間や外出等も可能な限り制限せず、旅行や行事への参加を募ったり、ご家族も含めて家族のように皆で支え合って行けたらと考えています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	毎月ご入居者様の様子を発信し喜びを共有し、面会時間や外出等も制限せず、旅行や行事への参加も募り、会いたい時に会える環境を提供している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人やご近所さんの面会などは、ご家族の許可があれば制限しない。映画鑑賞がお好きな方には定期的に映画にも行って頂いている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	常日頃の人間関係を良く観察し把握する事によって、良い関わりが持てるよう援助している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ご退居後も次の施設に訪問し、様子伺いを行っている。ご家族様へも郵便物の転送をおこなったり、電話や訪問で話す事がある。先日は2年ぶりに本人様を連れて遊びにきてくださった方も居られた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の希望を汲み取り可能な限り実現できるように、また近付けるように援助している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の訪問調査や入居後も本人様やご家族様から情報をいただき把握している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日詳細な申し送りを行い把握している。連絡ノートを活用。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	希望に沿ったケアプランを作成するために本人様とご家族様とのヒアリングとカンファレンスを行って作成している。その後もモニタリングを行い、ケアプランに反映している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	病気や怪我でプラン変更が必要となった時は期間に関係なくプラン変更を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日課経過記録表に記入し、パソコン内からも閲覧できるようにして情報の共有をしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助や外出援助、更には手続き業務等の代行も行っています。また、急な外出や外泊希望にも柔軟に対応しております。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	別府市で行われる祭りや催し物などにお連れしていますし、ボランティアの踊りの先生にお出でいただき盆踊りの練習をしたり、保育園児のお遊戯を披露してもらったり、小中学校の生徒の訪問もあります。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	1～2ヶ月に1回訪問美容サービスを受けている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括支援センターのケアマネさんとは推進会議でも顔馴染みであり情報交換を行ってる。また、各病院のソーシャルワーカーとも連携をとり、ご利用者様を中心に家族・病院・居宅・施設が連携をとって動くよう努めている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医以外にも希望される病院や専門の診療科への受診も行っており、ご家族が付き添えない時は職員が同行介助している。また、歯科・皮膚科・泌尿器科・眼科は往診もいただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医が認知症専門医であるため、日頃より健康管理や医療面での相談・助言・対応を行ってもらっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	非常勤の看護師が2名居り、更に施設長も看護師のため、介護職員と連携して常にご利用様の健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には介護添書にて情報提供を行い、入院中は頻繁に面会に行き環境の変化に戸惑わないようにしている。医師よりの説明はご家族の希望もあり常に同席させていただいており、早期回復・早期退院に向けご家族様やソーシャルワーカーと協力し合っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りについての指針を提示し、ご家族の希望を文書で頂いている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	症状が進行し重度になっても入居を続ける事ができるが、恒常的な医療が必要となった場合は施設での対応は難しい事を契約時と家族会で説明しており、ご家族にも了解していただいている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	これまでの暮らしの継続性が損なわれないよう情報提供する事は勿論、転居後にも訪問しダメージが最小限になるよう努力している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご利用者様の尊厳を守るケアを常に心掛けている。声かけ一つにしても状況をふまえて行動し、周りとの関係も配慮しながらケアを行っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ケアの誘導に対して拒否があった場合は強要せず、誘導方法を変えたり時間を置いたり工夫をして、ご利用者様の同意を待つ。日頃よりご利用者様の表情や様子で何を求めているのかを読み取りケアする事で信頼関係を作っている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調によっては食事の時間を下げたり、入浴日を変更したりしている。「天気が良いから散歩に行こう」等の希望があれば極力実現に努めている。また、個々の嗜好品の提供も行っており、希望される飲み物や食べ物を召し上がっていただいたりしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	訪問理容を利用されている方が多いが、希望者は外部の美容院にお連れしている。また、行事の際はお化粧したり綺麗な洋服を着たりして日常とは違う姿を楽しんでいただいている。日々の生活での洋服などはご自分で選び替えていますが選択が難しい方はお手伝いさせて頂いている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月1回おやつ作りを栄養士と一緒にやっている。日常ではココア作りや茶碗拭きなどの後片付けを機能に合わせてできる事を行っていただいている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ヤクルトなどの乳製品を定期的に取りっている方も居られ、個人の嗜好は最大限に楽しんでいただいている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人の排泄間隔を把握し、できる限りトイレでの排泄を心掛け、尿意のない方も時間毎に誘導しています。尿漏れのある方には失禁ショーツや尿取りパッド等を使用し、日常生活に支障がないよう留意している。また、失禁しても周りに気付かれぬ様にさりげなく移動していただき更衣していただき、保清にも気を付けています。夜間の排泄誘導も行っています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的な入浴日は決まっているが気分や体調に合わせて日程を変更している。入浴拒否があっても誘導方法を変えたり、職員を替えたり、時間を変えたり工夫をして同意を待つ。強要はしない。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の希望する寝床をセッティングし安眠できるようにしている。眠れない時は付き添ったり、スタッフルームでお茶を飲みながらおしゃべりしたりし、眠気を催したら寝床に案内している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々のレクリエーションでは頭を使ったレクや体を使ったレク、音楽のレクなど変化を持たせそれぞれが実力を発揮できるよう工夫しておりマンネリ化しないようにもしている。機能訓練もゲーム感覚で出来るよう工夫したりしている。毎月1回は外出レクリエーション等の行事を計画し楽しんで頂いている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を管理できる方は居られないので立替金で購入している。認知症の症状によっては財布を失くしたと言って不穏になられる方も居られるため状況を判断する必要がある。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩に出掛け五感を刺激し、自然や会話を楽しんでいただいている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	一泊旅行や海遊びに行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を代筆してご家族に出す援助を行ったり、ご家族の了解を得て電話をかけていただいたり、かけたりしている。取り次はいつでもOKである。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族やご友人がいつでも面会に来れるよう笑顔でお迎えしている。お部屋でゆっくり過ごしていただき「また来よう」と思っていたけよう留意しています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0委員会を設置しており、意識して行わない事は勿論であるが、気付かぬ内に拘束していないかなど毎月の全体会議で皆で話し合い確認合っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	フロア入口に電子錠が設置されてるがこれは階段からの転落防止など安全確保の為に認識しており、出入り口で外出したような様子を察知したら原因を探り不安を除く対応している。決して抑制とならない様に留意している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員はご利用者様と同じ空間に居て、寄り添った介護を心掛けている。長く居室に居られる方には1時間毎の水分補給時を利用して見守りを行うと共にレクやリハビリ参加の声掛けを行い、他者との関わりのない時間が長時間にならないよう留意している。夜間は2時間毎の巡視を行い、眠れない方には付き添ったりスタッフルームでおしゃべりしたりしている。また、介助が必要な方には離床センサーを設置して事故予防に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご自分で管理する事が難しい方はスタッフが付き添って機能に合わせて使用していただいている。包丁の入っている戸棚は鍵を付け、ハサミや薬はスタッフルームに保管している。ハイターなどの薬品は手の届かない場所に保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリ・ハットや事故報告書により、予防や再発防止に取り組んでいる。また勤務時間中は360度気を配り、事故が起こらないよう注意している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時マニュアルを整備し社内研修を行い、消防署主催の普通救命指導も受講している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月1回避難訓練を実施し、年1回は消防署立会いの避難訓練も行い、避難経路の確認や誘導方法の確認を行っている。避難場所については近所の駐車場をお借りしたりして協力をいただいている。また、災害発生時用の食料や飲料水、防寒用品や簡易トイレなどの備品を備え、災害時救助をご近所さんにお手伝いいただけるよう働きかけている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	身体や認知症や疾病の状態変化によるリスクを察知し、ご家族様に報告しケアプランもタイムリーに変更して状況の共有化に努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の様子を把握して異常を早期に発見できるようにしており、看護師やリーダー・施設長に報告し速やかに対応している。処置後も継続して観察を行いアセスメントを行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬内容については個人ファイルで管理し、職員が内容を把握できるようにしている。服薬確認については、自立の方も介助の方もきちんと内服できているか確認を行い、チェック表にサインし与薬ミスのないようにしている。また、内服による状態の変化については記録を残し、主治医に報告し指示を頂いている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事・水分や運動・腹部マッサージのみでなく乳製品の摂取で薬に頼らず自然排便がみられるよう援助している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎日、口腔リハビリを実施し口腔機能が衰えないよう鍛え、口腔内の環境を整えている。毎食後に歯磨きを行い(義歯も外して洗浄)、不十分な部分は介助を行っている。就寝前は義歯を外し、洗浄殺菌剤に浸して清潔を保つようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事内容は栄養士が管理しており、偏食のための食品変更の対応も柔軟にされているため皆様美味しく食事をされている。水分摂取についてはその重要性を理解しており起床から就寝までの間、1時間おきに様々な飲み物を提供し水分管理を行っている。食事水分も摂取状況を記録に残し、職員間で情報を共有している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症防止委員会を設置しており、状況把握と対策をタイムリーに行い「感染症を持ち込まない・感染させない」を合言葉に取り組んでいる。インフルエンザ予防接種はご利用者様も職員も同意を得て全員接種している。職員には入館時の手洗い・うがいを義務付けており実施されている。入居者様も手洗い・うがいを励行していただいている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	栄養士を中心に食中毒防止委員会を設置しており情報を敏感に察知し、季節にも留意しながら衛生管理指導を行っている。また、業者による衛生検査も実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前に花を植えたり鉢植えをおいたりして明るくやさしい雰囲気にし、地域への情報発信としてポスターを貼ったりして入りやすいイメージにしている。また地域の景観を損なわないように毎日掃除を行い綺麗にしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	キッチンリビングルームに接しており、食事準備の音や匂いを感じる事ができる。また、季節を感じていただける飾り付けや食事を提供したり、お誕生会にはデコレーションケーキを手作りして皆でお祝いしたりしている。共有スペースの居心地が良いのか皆さんリビングに集まり談笑されている事が多い。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭いスペースではあるがソファを置き、自由に利用していただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は個室であり、本人様やご家族様と相談して使い慣れた家具や馴染みの物を置き、それぞれが皆個性のあるお部屋になっており落ち着いて過ごせる環境になっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	臭いの発生源を作らないように注意し、換気も行い快適に過ごしていただけるよう努力している。温湿度は1日6回チェックしており温度調整を心がけ、湿度は加湿器を利用し調節し、外の新鮮な空気を取り入れ換気にも留意している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアー内はバリアフリーであり、廊下やトイレ・浴室等には手すりが設置されており安全に動けるよう工夫している。居室内は整理整頓し、転倒事故等が起きないように留意している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自室前には承諾をいただいた上で表札を設置している。自室でお手洗いの位置が認識できずに失敗される方はトイレが一目で視野に入るようカーテンを開け放しておくなど工夫している。緊急ボタン(Nsコール)の赤いランプを見て火が出ていると不穏になる方の赤いランプに覆いをして隠すなど臨機応変に対応して不穏にならないようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	屋上のプランターで野菜を育て(水やりや手入れ)、収穫し、皆で食べている。また、屋上に洗濯物を干しに行ったり、散歩したり・気分転換に行ったりしている。夏は屋上から別府市の花火大会を鑑賞し楽しむ。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

2階フロアーは重度の認知症の方が中心に生活されていますので非言語的コミュニケーションも大切で、不安にならないようスキンシップを多く取り入れて信頼関係を保ち安心して生活していただけるよう留意しています。特にご自分から訴える事ができない方が多いので日頃の様子をよく観察し変化に素早く気づき、事故や入院するような重い病気にならない様に留意しています。日々、不安のない笑顔の絶えない楽しい生活ができるよう、快の刺激が多く入るように楽しいレクリエーションを多く取り入れ、散歩などは安全性に考慮し少人数で数回に分けて出掛けています。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
Ⅰ. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
Ⅴ. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

〔取り組んでいきたい項目〕

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

〔取り組んでいきたい内容〕

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

〔特に力を入れている点・アピールしたい点〕（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	はびね別府 3 階
所在地 (県・市町村名)	別府市
記入者名 (管理者)	河野 道子
記入日	平成 21年 8月 25日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	はびね別府の理念を職員全員で共有し、常にご利用者様に寄り添った介護を目指している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	はびねはどのような介護を目指しているかを採用時は勿論、申し送りや全体会議で伝えている。特に現場でのOJTを大切にしている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	入居時の説明は勿論、地域運営推進会議や家族会にて行事報告と共に報告している。現在は天満町の住人として皆様に認知していただいています。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	顔を合わせれば挨拶を交わし、時にはお話をしたり、回覧板を回していただいたり、避難訓練の際避難場所をお借りしたりしている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	2ヶ月に1回の運営推進会議にご参加いただいたり、地区の盆踊りにご家族様と参加したり、敬老会では演芸を披露したりして天満町の住民として楽しく支えあっています。また、地域の保育園や小・中学生の訪問も受けている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	盆踊りのヤグラの組立てや景品の袋詰めや後片付け、敬老会の会場準備や出し物への協力を行っている(事前に指示をいただいてシフトに組み込んでいる)。また、中学生の職場体験や看護学生やヘルパーの実習生の受け入れも行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価受審は日々の業務の評価であり、ケアを振り返る良い機会となり助かっています。毎回、ご指導いただいた内容は改善すべきは全て改善し、職員とも共有して有意義に活用させていただいています。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年は介護保険報酬改定もあったため地域推進会議でも議題に取り上げ、ご家族様や地域の方に情報提供を行い、ご意見を頂いた。また例年通り、地域行事への協力や参加の情報をいただき、行事の準備などをお手伝いさせていただいている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	別府市グループホーム連絡協議会で市役所の介護福祉課担当者にご講演を依頼し講演会を開催したり、日常では運営上の疑問点などを相談に行きアドバイスを頂いている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員は研修に参加し理解を深め、入居時などに制度についてご説明申し上げ、実際に手続きを取られた方も居られる。また、成年後見制度についてのファイルをいつでも閲覧できるよう玄関横に設置している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置しており毎月1回委員会を開催し、全体会議で職員に報告し意識を高めている。研修は社内研修にて研修を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書と重要事項説明書の読み合わせを行い、署名捺印をいただいている。また、疑問が生じた時はいつでも説明を行い納得していただいている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の会話の中で遠慮なく訴えられる雰囲気をつくっているが、認知症の症状が重く言葉で訴える事ができなくても表情や行動から本人様の意向を察し、利用者様の意思を尊重したケアを心がけている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	①担当職員が写真入りの『1ヶ月の様子』を作成 ②施設長が施設全般の近況報告の手紙と立替金管理簿など準備 上記①②を請求書と一緒に郵送している。健康状態については病院受診が必要な病気や怪我の時はその都度電話連絡している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会やお電話の際に直接言っていたり、年2回開催の家族会で意見を出していただいたり、年に1回行っている『ご家族様アンケート』でも多くのご意見をいただいている。ご意見に対しては速やかに回答しタイムリーに対応すると共にアンケートは集計結果を全家族に報告している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は毎日の申し送りに参加し、直接スタッフの意見を聞く事ができ、速やかに対応している。 リーダー会議や全体会議での意見交換は勿論、いつでも意見を言える体制になっている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員は互いに助け合う気持ちが大きく、急な病気の休みにも必ず他の職員が気持ち良くカバーしてくれている。また行事の際は普段より多く出勤するようシフトを組んでいる。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は基本的には半年に1回1名ずつとしているが採用者の教育のため新規採用があると異動がある場合もある。夜間の異常時や合同イベントの際、他の階の職員が対応しても動揺しないよう日頃より互いの階の利用者と接触を持ち顔見知りとなっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新採用者には『新採用職員チェックリスト』に沿って指導を行い、個々の能力に応じ補佐の期間に変化をつけている。年間を通して、外部研修や施設内研修で研鑽を積みレベルアップに努めている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	別府市は8施設でグループホーム連絡協議会を設けており、研修会や交流会を行い情報交換を行っている。またリーダー研修では互いの施設で交換研修を行ったりもした。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ゆっくり休憩が取れるように各フロアーに冷暖房完備の職員の休憩室を設けている。また、施設長やリーダーは職員の表情や様子を観察し声かけなどを行い、相談を受けたりしてfollowしている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員一人ひとりの得意分野を把握し活かしてもらい、認められる事で喜びを感じてもらおう。6ヶ月に1回の人事評価で評価し、給料に反映させている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご利用前に施設長と計画作成担当者のご自宅に訪問調査に伺い、家庭環境や生活状況(得意な事や趣味)を確認させていただくと共に本人様とご家族様からどの様な生活を望んでおられるのかを伺っている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談や見学に来られた際に困っている事や不安に思っている事等を十分に時間をとって伺い、アドバイスも行い少しでも気持ちが楽になるように援助している。また、その後の相談もいつでもお受けしている。更にご利用前に施設長と計画作成担当者のご自宅に訪問調査に伺い、再度ご家族ともお話しして入居に対する不安を残さないようにフォローしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	はびねのご利用が難しい方には在宅での介護サービスの利用方法をアドバイスしたり、入居できそうな施設の紹介などを行い必ず次につながるように努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご利用前に本人様に見学をしていただいたり、訪問調査にて職員の顔を覚えていただいたりしている。残念ながらショートステイはない。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の大先輩として接しており、色々な事を教えていただいています。常日頃より『介護する側が楽しくない事はご利用者様も楽しめない』と思っていますので職員も一緒に過ごす時間を楽しんでいます。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご入居者様の様子を発信し喜びを共有し、面会時間や外出等も可能な限り制限せず、旅行や行事への参加を募ったり、ご家族も含めて家族のように皆で支え合って行けたらと考えています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	毎月ご入居者様の様子を発信し喜びを共有し、面会時間や外出等も制限せず、旅行や行事への参加も募り、会いたい時に会える環境を提供している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人やご近所さんの面会などは、ご家族の許可があれば制限しない。映画鑑賞がお好きな方には定期的に映画にも行って頂いている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	常日頃の人間関係を良く観察し把握する事によって、良い関わりが持てるよう援助している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ご退居後も次の施設に訪問し、様子伺いを行っている。ご家族様へも郵便物の転送をおこなったり、電話や訪問で話す事がある。先日は2年ぶりに本人様を連れて遊びにきてくださった方も居られた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の希望を汲み取り可能な限り実現できるように、また近付けるように援助している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の訪問調査や入居後も本人様やご家族様から情報をいただき把握している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日詳細な申し送りをを行い把握している。 連絡ノートの活用。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	希望に沿ったケアプランを作成するために本人様とご家族様とのヒアリングとカンファレンスを行って作成している。その後もモニタリングを行い、ケアプランに反映している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	病気や怪我でプラン変更が必要となった時は期間に関係なくプラン変更を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日課経過記録表に記入し、パソコン内からも閲覧できるようにして情報の共有をしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助や外出援助、更には手続き業務等の代行も行っています。また、急な外出や外泊希望にも柔軟に対応しております。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	別府市で行われる祭りや催し物などにお連れしていますし、ボランティアの踊りの先生にお出でいただき盆踊りの練習をしたり、保育園児のお遊戯を披露してもらったり、小中学校の生徒の訪問もあります。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	1～2ヶ月に1回訪問美容サービスを受けている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括支援センターのケアマネさんとは推進会議でも顔馴染みであり情報交換を行って。また、各病院のソーシャルワーカーとも連携をとり、ご利用者様を中心に家族・病院・居宅・施設が連携をとって動くよう努めている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医以外にも希望される病院や専門の診療科への受診も行っており、ご家族が付き添えない時は職員が同行介助している。また、歯科・皮膚科・泌尿器科・眼科は往診もいただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医が認知症専門医であるため、日頃より健康管理や医療面での相談・助言・対応を行ってもらっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	非常勤の看護師が2名居り、更に施設長も看護師のため、介護職員と連携して常にご利用様の健康管理や状態変化に応じた支援を行えている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には介護添書にて情報提供を行い、入院中は頻繁に面会に行き環境の変化に戸惑わないようにしている。医師よりの説明はご家族の希望もあり常に同席させていただいており、早期回復・早期退院に向けご家族様やソーシャルワーカーと協力し合っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りについての指針を提示し、ご家族の希望を文書で頂いている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	症状が進行し重度になっても入居を続ける事ができるが、恒常的な医療が必要となった場合は施設での対応は難しい事を契約時と家族会で説明しており、ご家族にも了解していただいている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	これまでの暮らしの継続性が損なわれないよう情報提供する事は勿論、転居後にも訪問しダメージが最小限になるよう努力している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご利用者様の尊厳を守るケアを常に心掛けている。声かけ一つにしても状況をふまえて行動し、周りとの関係も配慮しながらケアを行っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ケアの誘導に対して拒否があった場合は強要せず、誘導方法を変えたり時間を置いたり工夫をして、ご利用者様の同意を待つ。日頃よりご利用者様の表情や様子で何を求めているのかを読み取りケアする事で信頼関係を作っている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調によっては食事の時間を下げたり、入浴日を変更したりしている。「天気が良いから散歩に行こう」等の希望があれば極力実現に努めている。また、個々の嗜好品の提供も行っており、希望される飲み物や食べ物を召し上がっていただいている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	訪問理容を利用されている方が多いが、希望者は外部の美容院にお連れしている。また、行事の際は化粧したり綺麗な洋服を着たりして日常とは違う姿を楽しんでいただいている。日々の生活での洋服などはご自分で選び替えていますが選択が難しい方はお手伝いさせて頂いている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食1品は2階フロア分も一緒にご利用者様に作っていただき料理を楽しんでいただいている。毎月のホームパーティーでは、ご利用者様の希望を伺いながら焼肉パーティーや鍋パーティーなどを行っている。おやつ作りを栄養士と一緒にやっている。また、日常は後片付けを機能に合わせてできる事を行っていただいている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	するめが食べたい、コーラを時々飲みたい等の訴えがあれば医療的に禁止食でない限り、個人の嗜好を大切に最大限に楽しんでいただいている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄間隔を把握した上で個人の尿便意をなくさないよう見守りや援助を行っている。尿漏れのある方には失禁ショーツや尿取りパッド等の介護用品を上手に活用し不快な思いをしないよう援助し、できる限りトイレでの排泄を心掛け日常生活に支障がないよう留意している。また、失禁しても周りに気付かれぬ様にさりげなく移動していただき更衣していただき保清にも気を付けている。夜間も排泄介助が必要な方には、さり気なく援助している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的な入浴日は決まっているが気分や体調に合わせて日程を変更している。入浴拒否があっても誘導方法を変えたり、職員を替えたり、時間を変えたり工夫をして同意を待つ。強要はしない。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の希望する寝床をセッティングし安眠できるようにしている。眠れない時はスタッフルームでお茶を飲みながらおしゃべりしたりし、眠気を催したら寝床に誘導している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々のレクリエーションでは頭を使ったレクや体を使ったレク、音楽のレクなど変化を持たせそれぞれが実力を発揮できるよう工夫しておりマンネリ化しないようにもしている。機能訓練もゲーム感覚で出来るよう工夫したり、自ら積極的に「また○○がしたい」などと進んで参加したくなるようにしている。毎月1回は外出レクリエーション等の行事を計画し楽しんで頂いている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を管理できる方はご家族と相談し財布を持っていたり、ご家族様の希望でお小遣いの補充を立替金としてお渡ししている方もいる。お金の管理が難しい方は立替金として必要時立て替えさせて頂いている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩に出掛け、五感を刺激し、自然や会話を楽しんでいただいている。また、買い物希望があれば極力都合をつけて外出援助している。選挙に行きたいとの希望があれば市役所に期日前選挙にお連れしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	一泊旅行や海遊びにお連れしている。また、ご家族様との旅行や行事での外出の際は荷物の準備や仕度の援助を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を代行してポストに入れたり、ご家族の了解を得て電話をかけていただいたり、かけたりしている。外線も取り次もいつでもOKである。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族やご友人がいつでも面会に来れるよう笑顔でお迎えしている。お部屋でゆっくり過ごしていただき「また来よう」と思ってもらえるよう留意しています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0委員会を設置しており、意識して行わない事は勿論であるが、気付かぬ内に拘束していないかなど毎月の全体会議で皆で話し合い確認し合っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	フローア入口に電子錠が設置されてるが、開錠可能なご利用者様は自由に開閉できる。開錠できないご利用者様には外出したような様子を察知したら声をかけを行い対応している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員はご利用者様と同じ空間に居て、寄り添った介護を心掛けている。長く居室に居られる方には1時間毎の水分補給時を利用して見守りを行うと共にレクやリハビリ参加の声掛けを行い、他者との関わりのない時間が長時間にならないよう留意している。夜間は2時間毎の巡視を行い、眠れない方には付き添ったりスタッフルームでおしゃべりしたりしている。また、離床センサーも活用している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご自分で管理できる方は居室で使用されているが、管理が難しい方はスタッフが付き添って機能に合わせて使用していただいている。包丁の入っている戸棚は鍵を付け、ハサミや薬はスタッフルームに保管している。ハイターなどの薬品は手の届かない場所に保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリ・ハットや事故報告書により、予防や再発防止に取り組んでいる。また勤務時間中は360度気を配り、事故が起こらないよう注意している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時マニュアルを整備し社内研修を行い、消防署主催の普通救命指導も受講している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月1回避難訓練を実施し、年1回は消防署立会いの避難訓練も行い、避難経路の確認や誘導方法の確認を行っている。避難場所については近所の駐車場をお借りしたりして協力をいただいている。また、災害発生時用の食料や飲料水、防寒用品や簡易トイレなどの備品を備え、災害時救助をご近所さんにお手伝いいただけるよう働きかけている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	身体や認知症や疾病の状態変化によるリスクを察知し、ご家族様に報告しケアプランもタイムリーに変更して状況の共有化に努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の様子をを把握して異常を早期に発見できるようにしており、看護師やリーダー・施設長に報告し速やかに対応している。処置後も継続して観察を行いアセスメントを行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬内容については個人ファイルで管理し、職員が内容を把握できるようにしている。服薬確認については、自立の方も介助の方もきちんと内服できているか確認を行い、チェック表にサインし与薬ミスのないようにしている。また、内服による状態の変化については記録を残し、主治医に報告し指示を頂いている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	できるだけ緩下剤に頼らず、食事・水分や運動・腹部マッサージ・腹圧介助などで自然排便がみられるよう援助している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食前に口腔リハビリを実施し口腔機能が衰えないよう鍛え、口腔内の環境を整えている。毎食後に歯磨きを行い(義歯も外して洗浄)、介助の必要な方は援助している。就寝前は義歯を外し、洗浄殺菌剤に浸して清潔を保つようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事内容は栄養士が管理しており、偏食のための食品変更の対応も柔軟にされているため皆様美味しく食事をされている。水分摂取についてはその重要性を理解しており起床から就寝までの間、1時間おきに様々な飲み物を提供し水分管理を行っている。食事も水分も摂取状況を記録に残し、職員間で情報を共有している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症防止委員会を設置しており、状況把握と対策をタイムリーに行い「感染症を持ち込まない・感染させない」を合言葉に取り組んでいる。インフルエンザ予防接種はご利用者様も職員も同意を得て全員接種している。職員には入館時の手洗い・うがいを義務付けており実施されている。入居者様も手洗い・うがいを励行していただいている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	栄養士を中心に食中毒防止委員会を設置しており情報を敏感に察知し、季節にも留意しながら衛生管理指導を行っている。また、業者による衛生検査も実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前に花を植えたり鉢植えをおいたりして明るくやさしい雰囲気にし、地域への情報発信としてポスターを貼ったりして入りやすいイメージにしている。また地域の景観を損なわないように毎日掃除を行い綺麗にしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	キッチンリビングルームに接しており、食事準備の音や匂いを感じる事ができる。また、季節を感じていただける飾り付けや食事を提供したり、お誕生会にはデコレーションケーキを手作りして皆でお祝いしたりしている。共有スペースの居心地が良いのか皆さんリビングに集まり談笑されている事が多い。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭いスペースではあるがソファを置き、自由に利用していただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は個室であり、本人様やご家族様と相談して使い慣れた家具や馴染みの物を置き落ち着いて過ごせる環境にしている。お仏壇を持ち込まれたり、書き物をされる机を持ち込まれている方も居られ、それぞれが皆個性のあるお部屋になっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	臭いの発生源を作らないように注意し、換気も行い快適に過ごしていただけるよう努力している。温湿度は1日6回チェックしており温度調整を心がけ、湿度は加湿器や乾燥機を利用して調節し、外の新鮮な空気を取り入れ換気にも留意している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内はバリアフリーであり、廊下やトイレ・浴室等には手すりが設置されており安全に動けるよう工夫している。居室内は整理整頓し、転倒事故等が起きないように留意している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自室前には承諾をいただいた上で表札を設置している。自室でお手洗いの位置が認識できずに失敗される方はトイレが一目で視野に入るようカーテンを開け放しておくなど工夫している。緊急ボタン(Nsコール)の赤いランプを見て火が出ていると不穩になる方の赤いランプに覆いをして隠すなど臨機応変に対応して不穩にならないようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	屋上のプランターで野菜を育て(水やりや手入れ)、収穫し、皆で料理し食べている。また、屋上に洗濯物を干しに行ったり、散歩したり気分転換に行ったりしている。夏は屋上から別府市の花火大会を鑑賞し楽しむ。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

3階フロアーは軽度の認知症の方が生活されているため、日々の生活の中でそれぞれができる事を行い助け合いながら協調して楽しく生活できる事を目標にしています。ご自分でできる事はしていただき、お手伝いの必要な所のみ声掛けしたり、援助するように心掛けています。また、昨年末より口腔管理に重点を置き、口腔リハビリに取り組んでいます。DVDを観ながら皆で口を動かしたり・昔懐かしい歌をリハビリとして毎食前に歌ったりして、口腔機能を高めたり、認知症の進行の防止に努めています。その他にも外食や外出・買い物、趣味の映画など極力希望を叶え楽しんでいただける様に努力しています。